

2007 年
秋

10月1日発行 ■ 通巻 7 号

市民一人ひとりの生涯学習を支援する情報誌

季刊 ゆとろぎ

発行：羽村市教育委員会／企画・編集：羽村市生涯学習センターゆとろぎ+ゆとろぎ協働事業運営市民の会

連載
私の生涯学習
第3回

チェロとの出会い、
オーケストラとの出会い

及川真一さん

新・
楽学遊空間

10月25日
小ホール

ゆとろぎ文化講演会
『高齡化社会の光と影』
小林宏行 先生
(杏林大学名誉教授)

11/30

ゆとろぎ

サロントーク

アフリカの大地に挑み続ける

菅原義正と日野レンジャー

9月2日、『アート in はむら展Ⅶ』でワークショップが行われ、大勢の小学生が新素材を使った造形遊びを楽しんだ。

連載
私の生涯学習
第3回

チェロとの出会い、オーケストラとの出会い

おいかわしんいち

及川真一 さん（36歳）

チェロ三昧の大学生活

聞こえてくるのは演歌ばかりという家庭環境の中で、中学生の頃からクラシック音楽にはまって、レコードやCDを買ったり、スコア（総譜）を見ながら聴いたりしていました。でも、本物の楽器に触れる機会はないままに過ぎて、チェロを始めたのは大学に入ってからです。

オーケストラ部に入団を申し込みに行って、まず楽器を選ぶときに、なにしろそれ

まで何も習ったことがないわけ、でもやっぱり「クラシックといえば、弦楽器！」だと。「じゃ、ヴァイオリンは

いっぱいいるからチェロはどう？」って勧められたのが出発点でした。

最初の1年はひたすら基礎練習。毎日、昼休みはごはんを食べたら練習室に直行。授業のコマが空いてるときや休講のときにも練習。個人教授を受けに行ったりして、チェロ漬けの大学生活でした。ひ

と通り楽譜をたどって、自分

なりに納得のいく音で弾けるようになるのに3年くらいかかったでしょうか。

プロはともかく、世間の音楽愛好家には、僕のように大学からとか、もともと大人にな

ってからでも、「好きだからやりたい」と思って楽器を始めた人、けっこういますよ。羽村フィルのメンバーの中に

も、町の音楽教室でレッスンを受けることから始めたという人がたくさんいます。

ハーモニーを支える喜び

チェロの魅力というのは、一言で言えば「自分が音楽（和音）の底を支えている」という感覚でしょうか。主

旋律を奏でるヴァイオリンのような華やかさはないけれども、ときにはチェロならではの低音が美しいメロディを受け持つこともあるし。

個人的な好みとしては、壮大なオーケストラもいいけれど、小編成の室内楽が好きなんです。落ち着いた弦楽四重奏とか、いいですね。羽村フィルの活動以外にも、ときどきいろんな人たちと演奏

する機会を作っています。音大を出た人たちとのアンサンブルは、相手の方には少し迷惑をかけるかもしれないけれど、自分にとってとてもいい勉強になります。

趣味だから楽しいし、難しいこと

好きでやってることですから、基本的には楽しいんです。でも、社会人の市民オーケストラって難しいなあと思うこともあります。

アマチュアとは言っても、たとえば年2回の定期演奏会でも、せっかく足を運んでくださる方々に申しわけのない演奏はしたくない、と思っ

ています。でも、いろんな人が参加しているわけだから、音楽との関わり方、感覚もそれぞれです。「自分なりに楽しめればいい」という人もいる。オーケストラに限ったことではないでしょうが、たくさん

の人の団体を永く続けていくというのは大変ですよ。やっぱりお互いに尊重していかないとけませんからね。

ゆとろぎのオーブニングのとき、ソリストを迎えて250人を超える市民の合唱団と羽村フィルが演奏会をしました。数年前から準備を重ねて、やるからには成功させなきゃって、みんな一生懸命でした。あのとき、実は羽村フィルの代表の阿部さんが準備段階で急に亡くなられて、補佐のつもりで会合に出

つことになったんです。失敗できないという意味では大変な面もありましたが、充実した貴重な体験でした。

結果としてですが、こうしたことに関われたというのも、生涯向き合っても尽きることはない音楽の魅力と出会い、ここまで続けてこられた巡り合わせだと思います。その奥深さは、常に向上心の原動力になっています。続けること以外に、なにも得る方法はないですし…。

地元のフィルになるために

今、羽村の小中学校では、弦楽器ができる環境がありますね。大学に入るまで機会がなかった僕から見たら、うらやましい限りです。ただ、せっかく子どものうちにある程度弾けるようになって、その子たちと羽村フィルに接点がないというか、つながっていないのがもったいないという思いがあります。

地元で育った子どもたちが、大人になって羽村フィルに入ってくれるようになったらいいと思うんです。何か工夫できないでしょうかね。たとえば、演奏会で前座でもいいから子どもたちにも参加してもらおうとか。それとも、我々の知名度が低いのかな？ 12月にはまた定期演奏会をやります。子どもたちも聴きにきてくれたらうれしいですね。

（取材／江久保千英）



会社勤めのかたわら羽村フィルハーモニー管弦楽団でチェロを弾いて7年余。平日はどうしても仕事優先になるため、練習時間がままならない。週1回、主に羽村東小学校の音楽ホールで行われる練習には、できる限り早く行って練習する。オーケストラ全員の音がそろうときの喜びが次の練習に駆り立てる。青梅市在住。

アートとの“出会い”と
“新しい可能性”を探った
第7回 アート in はむら展ゆとろぎ
ギャラリー

8月28日から9月16日まで、多摩在住のアーティスト53人が約60点の作品を出展して、『アート in はむら展Ⅶ』アート・フェスティバル』が開催された。

9月2日には、同展ではおなじみの「ワークショップ」が開催され、新素材を使った造形遊びに子どもたちが目を輝かせていた。8日には人気イベントの「ギャラリートーク」を開催。参加者は作品の目の前で、制作者自身から作品の意図や制作中の裏話を聞き、アーティストとの交流を楽しんだ。

新しい試みも行われた。8日の「ギャラリーコンサート」では、現代音楽とのコラボレーションがゆとろぎ展示室の新しい可能性を感じさせた。また、『身近なアートを求めて』と題して、市民活動とアートの関係を探る「シンポジウム」が開催された。

パネリストに、武蔵野市で自然林保全活動を実践する福田珠子さん（エンジョイ・フォレス



ト女性林研代表、多摩地区で美術館ボランティア活動を行う小野澤せつ子さん（NPO法人アートプロジェクトTAMA事務局長）とゆとろぎ市民の会から2名が参加。アーティストと市民、約40名が現代アートの可能性を求めて白熱した議論を交わした。

ゆとろぎ ホール

ゆとろぎ市民の会 (芸術鑑賞部会) と羽村市文化協会・羽村市音楽連盟・羽村フィルハーモニーが手を結び、「ゆとろぎ大ホール」に「歓喜の歌声」を響かせる計画が進んでいます。また、年明けには新日本フィルを招聘して『ゆとろぎニューイヤー・コンサート』(仮称)が開催されます。「ゆとろぎ大ホール」はさまざまな催しで親しまれていますが、クラシック音楽ファンの期待に応えて、プロの演奏家も太鼓判を押す「ゆとろぎ大ホール」に“もう一つの顔”が生まれようとしています。

ゆとろぎ開館 3周年記念事業

羽村市民第九演奏会 2009 年 1 月 25 日

ゆとろぎ大ホールに 「歓喜」の歌声よ、響け!

ゆとろぎ開館3周年記念に『第九』を合唱しましょう。ゆとろぎ市民の会芸術鑑賞部会と羽村市文化協会、羽村市音楽連盟、羽村フィルハーモニー管弦楽団との協同により、2009年1月25日(日)『羽村市民第九演奏会』を開催します。

09年の本番にむけて、08年4月に合唱団員を募集します。5月に合唱団を発足させ、練習は月2回を予定しています。合唱団の参加資格は、高校生以上で、ゆとろぎで『第九』を歌いたい方。募集定員は150名。参加費(楽譜代込み)3000円が必ずです。

「第九入門」講座も開催

「第九」の魅力を学ぶ『第九入門講座』も併せて開催します。

08年は新日本フィルの ニューイヤー・コンサートから

本誌夏号でお伝えしたとおり、日本を代表する交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団を招いての『ゆとろぎニューイヤー・コンサート』が08年1月6日(日)、午後2時開場、2時30分開演で開催することが決まりました。

これに先立ち、新日本フィルの精鋭による「弦楽四重奏」(11月24日)と「金管五重奏」(12月21日)のプレ・コンサートも行います。併せて、お楽しみください。

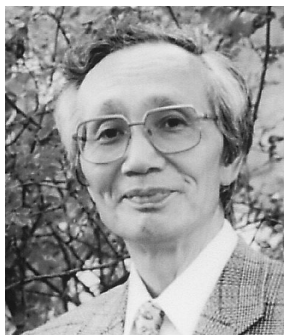
ニューイヤー・コンサートの入場料は、大人(前売り)4000円、(当日)

4500円、高校生以下(前売り)3000円、(当日)3500円です。プレ・コンサートはどちらも年齢に関係なく一人1000円です。本公演とプレ公演のセット券(大人5000円)も用意されています。各入場券

は10月6日からゆとろぎ窓口で、7日からはゆとろぎ以外の窓口で販売。どの公演も未就学児童の入場はできませんが、「一時保育(有料・要予約)」があります。



指揮／渡邊一正氏



渡邊學而氏

音楽評論家。慶応大学在学中に指揮を学び、同大ワグネル・ソサエティ男声合唱団で学生指揮者となる。学習院大学、日本女子大学、武蔵野音楽大学などで講師・客員教授を歴任。各種の講座や講演、評論活動のほか、合唱・吹奏楽などのコンクール審査員としても広く知られている。著書多数。元青梅市教育委員会委員長。



黒田 博氏

オペラ歌手。東京芸術大学大学院オペラ科修了。モーツァルトの4大オペラを初めとして数々のオペラ公演に出演。日本の創作オペラにも数多く出演し、現代曲のソリストとしても活躍。昨年のゆとろぎ開館祝賀祭での「1000人合唱」以来、羽村市でも高い人気を博している。東京芸術大学准教授、二期会会員。



橘今日子氏

メゾソプラノ歌手。東京芸術大学卒業。二期会オペラ研修所修了。クラシック音楽普及のためにさまざまな活動を展開している。羽村市では、ゆとろぎ開館祝賀祭の「1000人の合唱」やコンサート『歌の宝石箱』に出演し、ファンを増やしている。二期会会員。

- 12月19日(水) 開場 18:00 / 開演 18:30
- ゆとろぎ大ホール
- 大人(前売り) 3,000円 / (当日) 3,300円
4歳以上高校生まで (前売り) 2,000円 / (当日) 2,200円
- グループ(10人以上) 割引 一人 2,700円
- ※ 4歳未満は入場不可。一時保育(有料・要予約)あり。

大晦日の夜、真冬だというのに「マツユキソウをもってきたものに金貨をあげます」とわがままな女王様がお布令を出した。欲に目がくらんだ叔母は少女を森の中へむりやり追い出した。

少女は凍りつく寒さの森をさまよひ、森の精と出会う。少女のやさしさを知る森の精は1時間だけ森に春をよび……

家族でご覧になることを推奨します!

ロシア文学不朽の名作 劇団仲間 『森は生きている』

原作／サムイル・マルシャーク
訳／湯浅芳子(岩波書店刊)



12月
公演



本紙夏号でお伝えしたとおり、38 回目を迎える「羽村市文化祭」が、10 月 17 日から 11 月 25 日まで羽村市生涯学習センターゆとろぎで開催されます。今年は展示部門に 30 団体、ホール発表部門に 33 団体が参加し、羽村市文化協会が羽村市教育委員会から主管という形で委嘱を受けて、その企画と運営を行っています。「新しい文化祭」を目指して、さまざまな取り組みを行っています。第 38 回羽村市文化祭にぜひ足をお運びください。



昨年まで長年にわたって文化祭実行委員を務め、経験豊富な今井大宰文化協会会長は文化協会として初めての大役に「協会と市民の英知を集めて、新しい文化祭を創造したい」と抱負を語る。

羽村市文化協会は発足当初からの方針として近隣市町との広範な文化交流を掲げ、青梅市・福生市・あきる野市・瑞穂町の各文化協会との関係作りを行っています。これを基に、羽村市内だけでなく近隣市町にも羽村の文化祭を知ってもらい、より多くの人に来場してもらうために、従来の広報活動に加えて、今回初めて多摩ケーブル

羽村市文化協会が主管で羽村の文化祭は1970（昭和45）年に、当時の羽村町教育委員会の呼びかけによって『第1回総合文化祭』として始まりました。以来、現在の「協働」を先取りする形で市民と行政が知恵と汗をともに出し合いながら、羽村市民の文化・学習活動を啓発し、まちづくりの一端を担ってきました。

会長・加盟団体66団体・連盟）にその企画運営が全面的に委ねられることになり、羽村市文化協会では「文化祭委員会」を設置して、従来の長所を引き継ぎながら「新しい文化祭」の開催を目指しています。

表や展示に力を発揮してもらう」（今井会長）ことにしました。全体会議は2回程度に縮小し、各部門の開催期日単位に委員会を結成し、文化協会の役員がそのリーダーとなって会場の配置やスケジュールなどを決めることにしました。加えて、従来は実行委員で分担していた会場係や駐車場係、受付などの仕事を「ゆとろぎ市民の会」のレセプションやシルバー人材センターなどに委託し、参加団体の負担軽減を図っています。

近隣市町との文化交流も

第 38 回羽村市文化祭日程（日程・会場等は変更される場合があります）

展示の部	10 月 17 日～ 21 日		10 月 24 日～ 28 日		10 月 31 日～ 11 月 4 日	
展示室	羽村市華道会		白いキャンバス パステル画教室フロア		羽村市書道連盟	
学習室 1A 1B			羽村墨友会		はむら民俗の会 文の会	
学習室 2A 2B			スネークジュニア		糸ぐるま洋裁教室	
学習室 3			木彫 樺		押し花グループ 四季の花	
会議室			奴奈川流域山会		短歌サークル 創流水炎俳句会	
講座室 1A 1B			彩光会 わかば		羽村市書道連盟／羽村篆刻同好会 羽村市書道連盟	
講座室 2			デジカメ同好会 写交会		羽村連鶴の会 大人の紙ワザ音楽部	
創作室 1			森のシャッター／フォト・まい まいず／写楽の友		ニットサロン 羽村青年学級ふれんど	
創作室 2			陶芸連絡会		編み物手芸クラブ	
和室					羽村市茶道会（11 月 3 日のみ）	
2 階廊下			羽村水墨会			
ホール 発表の部	10 月 27 日	10 月 28 日	11 月 3 日	11 月 4 日	11 月 24 日	11 月 25 日
大ホール	羽村市音楽団有志 コールひまわり はむら児童合唱団 コール樹々 羽村リコーダーアンサンブル コールせせらぎ トトロの会 Jelly Beans 羽村グリークラブ 童謡ドレミの会 はむら女声コーラス 羽村市吹奏楽団	大正琴扇靖流 羽村支部 カトレア会 西吟会 三味線弥尾地会 箏・雅の会・ 羽村三曲会合同	スズランの会 カフラオハワイ 羽村マジッククラブ キーボードバンド	チャイルドダンス キャッツ愛 エルムンドと フラメンコの 仲間たち スタジオアロハ インナノコ ラウリーフラ サークル	河藤流 菊扇流 松乃扇流 京花流	藤恵流 東流
小ホール						鈴の会
交流広場					西馬音内盆踊り を楽しむ会	

第38回羽村市文化祭

明日への飛躍、文化の集い

ネットワークでのCM放送を計画しています。

「明日への飛躍」を
目指して

第38回羽村市文化祭は羽村市文化協会が全面的に企画運営に携わる初めての文化祭です。37年の歴史の上に新たな文化祭の実現を目指して、さまざまな試みを取り入れています。副題の『明日への飛躍』について、今井会長は「今年の結果を踏まえて来年につなげたい」との思いを重ねています。新たな意気込みで始まる第38回羽村市文化祭にご注目ください。

※文化祭の詳しい日程は近々パンフレットが配布される予定です。そちらをご参照ください。ゆとろぎの駐車場は収容台数に限りがありますので、ご来場の際は市内循環バス「はむらん」をご利用ください。

その他のイベント

イベント	日時	会場・入場料
オープニング・パーティー	10月24日 開会 18：30	レセプションホール (参加費 2,000 円)
映画会	11月3日 開演 18：30	小ホール（入場無料）
音楽講演会	11月18日 開演 13：30	レセプションホール (入場無料)

文化の秋にちなんで市民講演会を開催します。今回は、杏林大学名誉教授の小林宏行先生に『高齢化社会の光と影 ― “よりよい生” をめざして ―』のテーマでお話をうかがいます。とかく“暗くなりがち”な「老い」をどう乗り切ったらよいのか、長年にわたる老人医療のご経験を基に講演をお願いしました。ぜひとも、ご聴講ください。（この講演会は小林先生並びに杏林大学のご協力により実現しました）

ゆとろぎ文化講演会



小林宏行（こばやし・ひろゆき）**先生** 1934（昭和9）年、山梨県南都留郡谷村町（現富士吉田市）生まれ。52年、東京都立立川高等学校卒業。58年、長崎大学医学部卒業。杏林大学医学部長、日本学術会議会員、文部省学術審議会専門委員、総務省独立行政法人評価委員（医学・福祉部門）、厚生労働省中央薬事審議会常任部会委員、厚生労働省薬事・食品衛生審議会専門委員、国際協力事業団（JICA）国内委員などを歴任。杏林大学名誉教授。羽村市双葉町在住。

講演テーマ

『高齢化社会の光と影』 ― “よりよい生” をめざして ―

講師 小林宏行先生（杏林大学名誉教授）

開催日■ 10月25日（木）

開場 13：30 / **開演**：14：00

会 場■ ゆとろぎ小ホール（入場無料）

日本は世界で類を見ない超高齢化社会を迎えた。だが、高齢者を囲む環境は万全とは言えないのが現実だ。だれもが、「老い」や「死」を希望のない「暗い」ことととらえ、重い気分になっ

てしまいがちである。
小林宏行先生は内科医として、長年、医療の最前線で活躍し、中央省庁のさまざまな審議会専門委員も歴任した。高齢者の健康と生活について多くの事例に接してきた経験を基に、高齢化社会の現状とこれから私たちがどう対処したらよいのか、ちよつと辛口のお話を聞いた。

小林先生は「画家は絵を描くときに、“影”を描くことで、“光”を表す。老いも同じこと」と喻えた。「現実の“影”の部分を知ってこそ、“光”への準備ができる」と気持ちを軽くしてくれる。

人生80年を迎えた現在、定年後の“明るい”人生設計や家庭設計に気を取られ、往々にして、定年後に20年、30年の人生があることを忘れがちである。「老人」の定義も人によってまちまちだ。小林先生は「“老い”は、ことが起きたときから始まる」と言う。「高齢になり一度骨折すると、頭はボケてくるし、体も動かなくなる。そうなった時にどうするかが、いちばんの問題」と忠告する。

高齢化社会の到来は、50年以上前から指摘され、その対策は

言われてきたが、現状は十分とは言いがたい。国家の老人介護・福祉施策は、「一律の予算の削減にあつて、高齢者を家庭で看ましよう……」という流れになつてきている」と指摘。だが、受け入れる家庭の多くが核家族である。子どもの教育もある。主婦の大半はパート勤めだ。「そういう状況だから、実際のところ、見たくても看られるわけではない」のが実情である。

国内海外の老人施設を数多く視察した経験から、「どこの国の老人も、本当のところは、家族と暮らすことを望んでいる。でも、家族への遠慮や自分は邪魔者なんだという意識が阻んでいる」と感じたと言う。「国や自治体の老人介護・福祉予算は限られている。だからこそ、一人ひとりが“老いる”ということと真剣に考え、“光”を探していくことが必要」と説く。

話は、「死」に及んだ。
「例えば、私が脳卒中で倒れ、病院に運ばれて入院する。家族は医師に『何とかしてくれ』と頼む。例えば植物状態でも生きている姿が尊いと言う。医師は一生懸命に治療する。全快が無理ならば、1日でも1分でも延命を目的に治療するだろう。そして、家族は毎日病室に詰めると思う。だが、それはせいぜい1か月から3か月というのが実情だ。それ以後はほとんどが病院に預けっぱなしになる。最初の『何とかしてくれ』という心情

はどうなったのだろうか、と正直思うことがある」と言う。

“安楽死”は医師や関係者だけで考える問題ではない。しばしば、先進国としてオランダやアメリカが引き合いに出されるが、日本とは文化や宗教が全く異なる。日本には日本の、伝統的な死生観、ある意味での「美しい姿」がある。それを壊さないようにするためにどうするか、どうしたらよいのかを日本人自身がみんなで考えなければならぬ問題だと言う。

現代は、「生きていくことにお金がかかる時代だ。だからこそ、“死”についても真剣に考えることが大事。病に倒れ、先のない状況に陥ったとき、経済的、精神的な問題を含めて、家族にどれほどの負担をかけるのか、かけないのか、真剣に考える必要がある」ということばには、医療現場を知る人ならではの説得力がある。「今日美味しい料理をたらふく食べて飲んで、明日血圧が上がリ、明後日に倒れて、その次の日に死ぬ。これが一番いい死に方だね」と笑う。

“老い”は避けて通ることのできない事実だ。とかく暗くなりがちでもある。「だからこそ、“老い”を知ることは、自らの“よりよい生”を考えることそのものではないか」小林先生は問いかけているように感じた。（取材／日下田まや）

ゆとろぎ
アカデミア

ゆとろぎ

サロンでトーク

『ゆとろぎ サロンでトーク』は、羽村市
内外から有名無名のゲストを招き、体
験・経験談や専門分野のお話などを気
軽に見聞する「おとなの雑学講座」です。

第4回

すがわらよしまさ

ゲスト：菅原義正さん (ラリードライバー)

日時：11月30日 (金) 開場 18:30 / 開演 19:00

会場：ゆとろぎ小ホール (入場無料)



1941年5月31日、北海道生まれ。日本のレース界の草分け的存在。日本レーシングマネージメント株式会社取締役会長。HINO チームスガワラ代表。

アフリカの大地に挑み続ける
ラリードライバー
菅原義正と日野レンジャー

道路も道標もない砂漠や荒野をクルマの限界に挑み競い合うために、毎年完走率は50%以下と世界一過酷なレースとして知られています。また、四輪・二輪だけでなく大型トラック(カミオン部門)が砂塵を巻き上げて疾走する姿はパリダカ人気の一つに上げられています。

日野自動車の挑戦

羽村市に工場のある日野自動車は、この『パリダカ』のカミオン部門に91年から連続で出場し、今年は同部門の10リッター以下クラスでクラス優勝、カミオン部門総合では9位と13位、そして、17年連続完走というすばらしい成績を残しました。

『パリダカ』という呼び名は、かつてフランスのパリをスタート地点として、約20日をかけてサハラ砂漠やアフリカの大地を走り抜け、セネガルの首都ダカールにゴールしたこと、現在も通称として使われています。07年はポルトガルのリスボンが出发点になりました。

菅原義正の挑戦

菅原義正さんは65年に国内ラリーに初出場以来、ホンダS600やミニクーパーSなどで数々のサーキットレースに参戦。77年以降、長距離の耐久ラリーに挑戦。パリダカは83年の第5回『パリ・アルジェ・ダカールラリー』にバイクで初挑戦後、すべての部門に出場し部門優勝を何度も果たしています。さらに連続出場25回、連続完走19回という、とてつもない記録も更新しています。

08年パリダカを前に、「完走はもちろん、排気量10リッター以下での優勝、そして、(カミオン)部門総合でも表彰台を狙います」とホームページに抱負が記されています。

アフリカの大地に挑み続ける菅原さんに、実戦中の貴重な映像を交えながら、パリダカの魅力やパリダカ出場の苦労話、さらに、菅原さんをパリダカに駆り立てるものはなんなのか？などをお聞きます。そして、みんなで菅原さんを応援しましょう。



※今回の「サロンでトーク」は日野自動車(株)のご理解とご協力により実現しました。



ゆとろぎの創作講座が開講して2年目を迎え、講座の受講を契機に趣味の世界の楽しさに目覚めた人はもちろんのこと、同好の仲間と出会い、さらに奥を深めようと自主グループを結成して“燃えている人たち”も現れています。ゆとろぎは主催事業を通して、市民のみなさんが趣味と出会い、仲間と出会うことができる、その“きっかけ”をご提供します。

2007 年後期「ゆとろぎ工房」の講座予定

講座名	開催日・時間		定員	受講料
新講座 写経のすすめ	10月2日・16日 11月6日・20日	全4回 全火曜日 10：00～12：00	15名	3,700円 (材料費込み)
日本画初心者教室	10月4日～3月20日	全12回 月2回・全木曜日 13：00～16：00	15名	11,550円 (材料費込み)
油絵初心者教室	10月10日～3月26日	全12回 月2回・全水曜日 13：00～16：00	15名	11,500円 (材料費込み)
新講座 手描き友禅染めアート	11月15日～1月31日	全6回 月2回・全木曜日 10：00～12：00	20名	15,500円 (材料費込み)
新講座 ガラスで遊ぶ その1 万華鏡の制作教室	10月13日	土曜日 10：00～12：00	20名	5,000円 (材料費込み)
新講座 やさしいトンボ玉	10月4日～12月20日	全6回 月2回・全木曜日 13：00～15：00	12名	12,500円 (材料費込み)
陶芸初心者教室 (休日コース)	10月13日～3月15日	全13回 土曜日・日曜日 13：00～16：00	20名	18,300円 (材料費込み)
新講座 レカンフラワー講座	10月6日～12月22日	全6回 月2回・全土曜日 10：00～12：00	15名	27,300円 (材料費込み)
新講座 ニットにふれて	12月8日～1月26日	全6回 月3回・全土曜日 9：30～12：00	15名	8,500円 (材料費込み)

2007 年後期「ゆとろぎアカデミア」の講座予定

講座名	開催日・時間		定員	受講料
新講座 ちょこっと体験 楽しいウクレレ	10月13日	土曜日 15：30～17：00	15名	700円
新講座 初心者のための わかりやすい詩吟体験教室	12月8日・15日・22日	全3回 全土曜日 13：00～15：00	15名	900円
新講座 安心・安全な“衣食住の基礎”シリーズ おうちの耐震について学ぼう	11月23日 12月8日	全2回 祝日・土曜日 14：00～16：00	30名	900円

ぞくぞくと
新講座開講

2007年後期「ゆとろぎ工房」の講座が左表のとおり開講します。全9講座のうち、6講座が新規講座です。既に受講受付が始まっています。受付終了の際はご容赦ください。また、開催内容が変更される場合もあります。詳しくは、ゆとろぎへお問い合わせください。

心を集中させ、275文字を無心に書き上げる。なにかと雑事に追われがちな私たちですが、忙しいからこそ、少しの時間を見つけて硯に向かうのもよいのではないのでしょうか。

品の制作を通して、友禅染めの基本とそのデザイン、図案の美しさ、高い芸術性を感じてください。

誰もが経験したことのある世界でしょう。あなたもオリジナルの万華鏡を作って、楽しい形、さまざまな模様を楽しんでください。第2回以降は、ランプシェードや自由なガラスアート作品の制作を企画しています。



レカンフラワー

写経のすすめ

墨の香り、静粛な時間。一文字一文字、一画一画に

手描き友禅染めアート

日本の伝統的染色工芸「手描き友禅染め」のすばらしさを体験してください。ハ

ガラスで遊ぶ その1
万華鏡の制作教室

「ガラスで遊ぶ」を基本に、本格的なガラスアートに挑戦します。第1回は「万華鏡」です。三角形のガラスの筒

レカンフラワー講座

レカン（麗乾）とはフランス語で「宝石箱」の意味。生きた草花を特殊な乾燥材

を使って、色も形もそのままに「美しく」乾燥させることです。専用の道具が必要ですが、身近なアイロンや、電子レンジも使います。生花のように仕上がった「レカンフラワー」をカードや額装にして、あなただけの「宝石箱」

を作ってみませんか。

ニットにふれて

手編みニットの楽しさを味わってください。棒針を使ったぬくもりのこもったニットで冬をのりきりましょう。

「ゆとろぎアカデミア」の新講座

楽しいウクレレ

ウクレレは楽譜が読めなくても手軽にマスターでき、これから楽器を始めた人に最適です。大変な反響をいただき、予定人員を越えたため受付を終了しました。

初心者のための詩吟体験教室

「詩吟」は、呼吸を整え、腹の底から声を出すことで健康にも最適。初心者にも「わかりやすく」指導しますので、詩吟の楽しさを体験してみてください。

おうちの耐震について学ぼう

暮らし・生活ジャンルの新講座「安心・安全な衣食住の基礎シリーズ」が始まります。

第1回は、住宅耐震診断や耐震改修への補助金制度なども含めて、住宅の耐震についての基礎講座です。応急危険度判定士・一級建築施工管理技士が経験を踏まえて、地震に対する心構えから自分で出来る耐震診断方法などを2回に分けてお話しします。

ゆとろぎ クラブ

「ゆとろぎクラブ」は市民のみなさんと生涯学習センターゆとろぎ及びゆとろぎ協働事業運営市民の会を結ぶ交流の場です。ゆとろぎからの情報だけでなく、市民のみなさんからの呼びかけ、問いかけ、事業に対するご批判、ご提案も大歓迎です。「市民一人ひとりの生涯学習を支援する」ために市民のみなさんからの情報をお待ちしています。

コナモーレがプチ・ギャラリーに — 音楽と写真のコラボレーション —

ゆとろぎ1階のカフェレス
トラン・コナモーレがお洒落
なギャラリーになりました。
7月20日から27日まで、羽
村市在住の音楽家、光野眞理
さんと日野市在住の写真家、
船橋美枝子さんによる「心の
雫」と題した、音楽と写真の
コラボレーションが行われま
した。光野さんと船橋さんは
元同級生の間柄で光野さんの
呼びかけに船橋さんが応える
形で実現したものです。

光野さんは、大学卒業後に
本格的な音楽活動を開始し、
子育てをしながら地域の音楽
ボランティアなども行ってい
きました。ジャズ、クラシック、
オリジナル曲など幅広いライ
ブ活動を行うと同時に、音楽
プロデューサーとしてアート
と音楽のコラボレーションを
手がけ、船橋さんの写真を見
て、「写真と音楽の競演がで
きたら」と思い声をかけまし
た。



市民の会事務局の隣席で熱心にメモをとる渡部理絵さん。行政からの「協働」の呼びかけに60名もの市民が応じたゆとろぎ市民の会に興味を持ったという。

ゆとろぎで「協働」を研究 日本女子大学大学院の渡部理絵さん

ゆとろぎには、開館以来、い
ろいろな方が視察や見学に訪れ
ていますが、この春から、日本
女子大学大学院で教育社会学
を研究する渡部理絵さんが博
士論文執筆のために、ゆとろ
ぎ市民の会に文字通り「密着」して研究
を行っています。

ゆとろぎを研究対象
に選んだ理由は？
誰もが参加でき、
企画運営に深く関わり、行政との協働を
実現できる「先進的
な事例」の一つだか
ら。可能性と、どう
いった限界や課題が
生じるのかも併せて

検証することが、羽村市民だ
けでなく、同様の仕組みを導
入しようとする自治体・市民
にとっても重要と考えます。
ゆとろぎで見聞したこと、率
直な感想を
初めて市民の会の会議に参
加させていただいたときの感
想は、「こんなにも長い時間と
多くの労力を費やすのはなぜ
だろう？」でした。一つ一つは
地道な作業で、効率は悪いか
もしれませんが、メンバー同
士が試行錯誤しながら作り上
げていく過程に共通している
のは、少しでも市民にとって
良質の施設でありたいという
「想い」でした。最近ではボラ
ンティアで運営することの課
題も浮かび上がってきました。
課題を掘り出し、正対して検
討することで、組織としても

う一回り大きく成長してくれ
るものと確信しています。
ゆとろぎに期待することは？
日々の企画・運営をよりよ
いものに仕上げることに並行
して、ふと立ち止まって「ゆ
とろぎで実現していきたいこ
と」を、市民の会だけでなく、
協働の一員である市職員の方
も加わって、共に練り上げて
いってほしいと願っています。
また、利用しているか否か
に関わらず、市民の皆さんか
ら「ゆとろぎ」の取り組みを
評価してもらえようという仕組
みを作ってほしいと思います。
見ず知らずの私を受け入れて
くださった懐の大きな「ゆと
ろぎ」が、より広く開かれた
柔軟性のある施設になってい
くための、よいチャンスにな
ると考えています。

防災訓練を実施

「避難経路図」も作成

9月1日、ゆとろぎ2階の給湯室か
らの「出火」を想定して、防災訓練が
行われました。

午前9時10分、「火事だ！」の叫び声
に続いて、火災の発生と発生場所を知
らせる館内放送が流され、消火班が火
災現場へ急行。その他の職員は館内利
用者を避難場所である表玄関前へ誘導
し、各担当者から田中センター長へ負
傷者、行方不明者の有無を報告。9時
20分、全員の無事避難を確認して終了
しました。訓練終了後、職員はゆとろ
ぎ全館を歩いて、消火栓や防火扉、非
常階段、避難路などをあらためて確認
しました。

ゆとろぎでは、先の中越沖地震を教
訓に火災・震災に備えて、「避難経路図」
を作成しました。学習室、講座室、創
作室、会議室、音楽練習室など、市民
のみなさんが普段利用する部屋の出入
り口付近に配置または壁にはり付けて
あります。入室した際に、それぞれの「避
難経路」を必ずご確認ください。



【編集室から】▼8月から11月にか
けて、ゆとろぎ展示室（ギャラリー）
は扉を締める間もないほど、作品展
が目白押しです。ゆとろぎで芸術の
秋を身近に体験してください▼08年
の『ニューイヤ・コンサート』開
催が決まりました。10月6日からチ
ケット販売開始です▼さて、ゆとろ
ぎ市民の会では、来年度事業の企画
案作りが本格的に始まりました。本
誌3ページでお伝えしたように、開
館3周年記念事業も動き始めました
▼そんなわけで、人手が足りません。
ゆとろぎの事業を私たちといっしょ
に考え、いっしょに汗を流してくれ
る有志を求めています▼特に、ギャ
ラリー部門と情報発信（月刊・季刊
ゆとろぎの編集・ホームページの作
成）部門で急募しています。もちろ
ん、これ以外の部門に関心のある方
も大歓迎です。「ならば！」と思わ
れる方はゆとろぎへ「一報ください」

季刊ゆとろぎ●2007年秋号

2007年10月1日発行（通巻7号）

発行 ■ 羽村市教育委員会

企画 ■ 羽村市生涯学習センターゆとろぎ
ゆとろぎ協働事業運営市民の会

編集 ■ 羽村市生涯学習センターゆとろぎ

〒205-0003
羽村市緑ヶ丘一丁目一五

☎042(570)0707
FAX 042(570)6422

http://www.city.hamura.tokyo.jp

印刷 ■ (株) 東光社

〒114-0013
東京都北区東田端一丁目二

編集 ■ 井上寛子・江久保千英・関沢和代・関
根和美・日下田まや・平田栄一・船橋瑛・

古澤義隆・村山利夫・山本豊・横田轟・

渡部清孝・羽村市生涯学習センターゆ
とろぎ

写真 ■ 浜中孝司・平田栄一・村山利夫

無断転載をお断りします。

Copyright ©2007 by YUTOROGI

All rights reserved.